

令和8年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和7年度の振り返りと令和9年度の取組検討）

施策No	532						
施策名	公共交通網の整備			施策の目的	● 持続可能な公共交通ネットワークを形成します。 ● 公共交通の利便性と効率性の向上を図り、利用を促進します。		
施策主管部長	都市建設部長	施策幹事課長	交通政策課長	関係課	市民生活課、障がい福祉課、いきいき高齢課、産業政策課、観光推進課、都市計画課、道路河川課、学校適正配置課、学校管理課		

1. 進行管理

(1) 指標の実績・考察

① 中期基本計画の指標 目標年度(令和7年度)の目標値達成状況

	指標	単位	実績基準値	実績値					最終年度（R7）の 目標値達成状況	左欄の「目標値達成状況」の総括
			R2	R4	R5	R6	R7	R7		
a	公共交通利用者数（市内の鉄道・バス・タクシー利用者数）	人	3,395,759	3,860,438	3,991,971	4,048,671	JR鉄道利用者数公表後入力	3,819,000		実績値確定後入力
b	生活路線バスの営業係数（運賃収入100円あたりにかかる経費）	－	650	341	289	279	256	420	①目標値を上回った	運行ダイヤ見直し、リーフレット等の配布による周知及び春・夏・冬休み期間中のワンコインバスの利用促進策等により生活路線バスの利用者数が増加しており、目標値を上回った。
c	デマンドバスの営業係数（運賃収入100円あたりにかかる経費）	－	1,843	1,701	1,728	1,814	2,039	1,850	③目標値を下回った	物価高騰や人件費等の上昇の影響により運行経費が増加しているなかで、利用促進策として乗り方教室やリーフレット等の配布による周知を実施しているが利用者数が横ばいで推移しており、目標値の達成には至らなかった。
d	市内の公共交通について、便利であると思う市民の割合	%	40.5	36.9	35.5	46.2	45.8	56.5	③目標値を下回った	利用者からの意見等を踏まえ路線バスの運行ダイヤ見直しを行い、他公共交通との接続性の向上及びデマンドバスの乗降場所の追加等により生活路線バスの利便性向上に取組んだが、目標値の達成には至らなかった。

② 後期基本計画 施策の対象・目的及び指標の設定 ※令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート「3. 後期基本計画策定のための施策の必要事項管理シート」から転記

対象		対象指標			単位	R4	R5	R6	R7	R8(見込)	R9(見込)	R10(見込)	R11(見込)	
①	公共交通を利用する市民及び来訪者	市人口（社人研推計）			人	115,700	114,695	113,498	112,515	111,388	110,515	109,641	108,768	
②	公共交通網	公共交通カバー町会数			町会	155	155	155	155	157	157	163	163	
③														
④														
目的		成果指標			単位	区分	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
・持続可能な公共交通ネットワークを形成します。 ・公共交通の利便性と効率性の向上を図り、利用を促進します。	①	公共交通利用者数（市内の鉄道・バス・タクシー利用者数）	人	目標値	3,643,000	3,709,000	3,771,000	3,819,000	4,049,300	4,049,600	4,049,900	4,050,200		
				実績値	3,860,438	3,991,971	4,048,671	京鉄道利用者数公表後入力						
	②	生活路線バスの営業係数（運賃収入100円あたりにかかる経費）	－	目標値	480	460	440	420	279	278	277	276		
				実績値	341	289	279	256						
	③	デマンドバスの営業係数（運賃収入100円あたりにかかる経費）	－	目標値	2,000	1,950	1,900	1,850	1,814	1,813	1,812	1,811		
				実績値	1,701	1,728	1,814	2,039						
	④	市内の公共交通について、便利であると思う市民の割合	%	目標値	55.0	55.5	56.0	56.5	47.0	47.5	48.0	48.5		
				実績値	36.9	35.5	46.2	45.8						

(2) 基本方針の取組状況

① 特に実績をあげている取組（計画初年度(令和4年度)以降の取組状況）

・路線バスへのバスローテーションシステムの導入、運行ダイヤ等の見直し、デマンドバスの運行時間の拡大及び乗降場所の追加により生活路線バスの利便性向上が図られている。

・生活路線バス及びタクシーの助成制度のデジタル化に向けて、佐野市地域公共交通協議会及び関係課と連携し実証運行を実施するとともに、利用者の利便性向上に向け、実装に当たった課題等を抽出し、その解消に取組んでいる。

・令和10年4月開校予定のかえて義務教育学校の通学輸送と連携し、公共交通空白地の解消に取組んでいる。

② 計画通り進捗していない取組 ※理由及び今後の対応も含めて記載

・主要交通結節点へのアクセシ性向上に関する検証を進めており、その結果を踏まえ、主要交通結節点における待合環境等の整備に向けた検討を進める必要がある。

・隣接市との交通サービスの相互利用の実施については、引き続き隣接市との意見交換等を通じて連携策の検討を進める必要がある。

(3) 令和7年度行政経営方針の取組状況

① 令和7年度行政経営方針

・現在実施している施策や事業の進捗状況等を評価・検証し、更なる公共交通の利便性向上に向けた課題の抽出や整理を行い、第2次佐野市地域公共交通計画を策定する。また、デジタル化や新たな輸送サービスの導入に向けた、新モビリティサービス事業計画を策定する。

・持続可能な移動手段を維持・確保するため、生活路線バスと連携した通学用バスや福祉輸送について、引き続き協議を進め、継続的・有効的な運行方法を検討する。

・生活路線バスの乗り方教室等を開催し利用者拡大を図るとともに、引き続き生活路線バスの利便性向上及び効率的な運行を図るため、利用者のニーズや利用者数等の各種データに基づき、運行ダイヤや運行経路の見直し等を行う。

・鉄道、タクシー等の既存公共交通が相互連携した利用環境の向上への取組を進め、市民サービスの向上や観光誘客の拡大につなげる。また、運行主体の異なる生活路線バスと佐野新都市線との連携について、関係機関と情報交換を行う。

・公共交通空白地域における移動ニーズの把握に努め、地域に合った移動手段の確保に向けた取組を検討する。

・新たなサイクル＆バスライド駐輪場の指定や利用者の拡大に向けた普及促進活動に取り組み、生活路線バスの利用促進とバス利用者の利便性向上を図る。

・新都市バスターミナルの維持修繕を行い施設の利用環境を改善し、交通結節点としての機能強化を図るとともに、施設自体の今後の利活用のあり方等についても検討を進める。

② 令和7年度行政経営方針の取組状況

・公共交通の更なる利便性向上を推進するため、第2次佐野市地域公共交通計画を策定した。また、公共交通におけるデジタル化を推進するため、マイナナンバーカードを活用した実証運行を実施し課題を抽出するとともに、サービスの導入に向けた佐野市新モビリティサービス事業計画を策定した。

・かえて義務教育学校の開校に向けて生活路線バスを活用した通学輸送について、開校準備委員会通学部会に關係課と連携して提案を行い了承を得た後、開校準備委員会に報告し承認された。

・バスの乗り方教室を開催するとともに、リーフレット等を配布し利用促進に向けた周知を図った。春・夏・冬休み期間中小・中・高校生を対象としたワンコインバスを実施し利用者の拡大に取り組んだ。また、利用者ニーズに基づき令和8年度の運行ダイヤの見直し及びデマンドバスの乗降場所の追加を佐野市地域公共交通協議会に提案し承認を得た。

・関係課が実施している佐野新都市線の事業推進に対する協力を行うとともに、複業人材を活用した、運行における課題改善に向けた検討に参加した。

・移動実態調査を実施し、公共交通空白地域の移動状況を把握した。また、公共交通空白地域（旗川地区）の移動手段の確保に向けた検討を行った。

・サイクル＆バスライド駐輪場の利用申請のweb化を開始し利用者手続きの簡素化を行った。

・新都市バスターミナル管理棟陸屋根修繕工事及びバス車路区画線修繕を実施し施設の維持に努めた。

(4) 環境変化や関係者の意見、要望等

・人口減少及び高齢化が全国的に進む中、免許返納した高齢者をはじめ移動手段の確保に対する不安が高まっている一方で、乗合バス・鉄軌道路線の減便・廃止やバス・タクシードライバーの減少が進み公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状況となっている。

・国では、官民共創・交通事業者間共創・他分野共創の「3つの共創」、自動運転やMaaSなどデジタル技術を実装する「交通DX」、車両電動化や再エネ地産地消など「交通GX」を柱とした地域公共交通の「リ・デザイン」（再構築）に向けた取組を進めている。

・本市においても、人口減少及び高齢化が進む中、移動手段を持たない市民が安心して移動できる環境作りが求められている。

・市民等から、主要交通結節点へのアクセシ性及び待合環境並びに駐輪場等の整備による既存公共交通の利便性向上が求められている。

2. 課題と次年度（令和9年度）の取組

(1) 課題

① デジタル技術等を活用した公共交通の利便性向上

② 生活路線バスの効率的な運行及び利用者拡大

③ 市内の既存公共交通との相互連携

④ サイクル＆バスライドの利用者拡大

⑤ 公共交通空白地域の移動手段の確保

⑥ 生活路線バスと通学用バス・福祉輸送との連携

⑦ 新都市バスターミナルの利用環境の維持と今後のあり方

⑧ 主要交通結節点の利用環境の向上

(2) 課題に対する今年度(令和8年度)内の取組状況、予定

① 国のデジタル実装定着支援事業を活用して、過年度の実証運行において明らかになった課題を踏まえ、本市の利用実態に合った助成制度の要件を具現化し、使われ続けるデジタルサービスを選定する。

② 利用状況等のデータを踏まえて生活路線バス運行ダイヤ等の見直しなどにより、利便性向上及び効率的な運行を検討する。

③ 鉄道事業者とダイヤ改正等に関する情報交換を行い生活路線バスとのアクセシ性の向上に努める。また、佐野新都市バス事業連絡協議会において、佐野新都市線の利用促進に向けた取組や今後のあり方の検討について協力を行う。

④ サイクル＆バスライドの利用者拡大に向けて駐輪場確保の検討や周知活動を行う。

⑤ 過年度分析したデータを踏まえ、公共交通空白地域への移動サービス導入に向けた取組を進める。

⑥ かえて義務教育学校の生活路線バスを活用した通学用バスの運行開始に向けて協議を行う。また、葛生義務教育学校通学用バス運行連絡協議会において、通学用バスの運行方法についての検討を行うとともに、今後義務教育学校への移行が予定されている通学用バスの運行について適宜関係課と協議を行う。

⑦ 施設の維持管理のため、法面防草シート修繕工事及びトイレ温水洗浄便座改修工事を実施する。

⑧ 主要交通結節点の待合環境及びアクセシ性向上を検討する。

(3) 次年度(令和9年度)の取組(案)

① 生活路線バス等の利便性向上を図るため、選定したデジタルサービスの実装に向けた取組を推進する。

② 生活路線バスの利便性向上及び効率的な運行を図るため、利用者のニーズや利用者数等の各種データを踏まえ、運行ダイヤや運行経路の見直しに取り組む。

③ 鉄道、タクシー、佐野新都市線及び生活路線バス等の既存公共交通の連携による利用環境の向上を図るため、交通事業者や関係課と今後のあり方について検討を進め、市民や来訪者のサービス向上に取り組む。

④ 自転車と生活路線バスとの接続性向上を図るため、サイクル＆バスライド駐輪場の確保や利用促進に取り組む。

⑤ 公共交通空白地域の解消を図るため、路線バスの運行やデマンドバスの運行区域拡大に加え他の輸送資源の活用について検討を進める。

⑥ 持続的かつ効果的な移動手段を確保するため、生活路線バスと市が実施する通学用バス等との連携について関係課と引き続き検討に取り組む。

⑦ 交通結節点の機能維持を図るため、新都市バスターミナルの修繕を適宜実施し利用環境の改善を図るとともに、今後のあり方等についての検討を進める。

⑧ 公共交通の利便性向上を図るため、主要交通結節点の待合環境及びアクセシ性向上等の整備に向けた検討に取り組む。

※重点取組は太字・下線で記載